

広島大学 経済学部

本学部は、昭和52年従来の政経学部が法学部と経済学部へ改組・分離してできました。本学部の組織の特色は、大講座制をとった点にあります。講座組織、教育科目および各教官の研究テーマは次のとおりです。ただし、教官数は現員です。

(1) 理論・計量経済学講座

- 教官数：8名（内OR学会会員1名）
- 教育科目：マイクロ経済学，数理経済学，マクロ経済学，動態経済学，計量経済学，統計学，経済統計学
- 研究テーマ：マイクロ経済学，経済成長と所得配分，経済データ解析，経済時系列の解析，計量経済学の統計理論，経済動学理論，一般均衡理論および公共経済学の数理的研究等

(2) 歴史経済科学講座

- 教官数：7名
- 教育科目：経済学史，歴史経済科学，日本経済史，現代日本経済史，欧米経済史
- 研究テーマ：英国古典派経済学，社会構成体の理論，日本経済史，産業合理化政策史，ラテン・アメリカ経済史，T・ヴェブレンの経済思想等

(3) 経済政策講座

- 教官数：10名
- 教育科目：経済政策原理，公共経済学，産業組織論，国際経済学，国際金融論，経済類型論，市場経済体制論，計画経済体制論
- 研究テーマ：経済政策，国際経済学の基本問題，外国為替と国際金融，発展途上国の開発問題，市場経済体制の有効性と限界，計画経済体制の比較研究，公共経済学，規制緩和の経済分析，国際金融論等

(4) 応用経済学講座

- 教官数：7名
- 教育科目：財政学，財政政策，地方財政論，金融論，金融政策，労働経済学，労使関係論
- 研究テーマ：公債論，財政政策の理論，地方財政，

金融市場と金利(制度・仕組み・理論)，労使関係の国際比較，金融政策論，労働経済学等

(5) 経営・情報講座

- 教官数：5名（内OR学会会員2名）
- 教育科目：会計学，経営学，情報処理論，経営情報論
- 研究テーマ：資本金論，経営組織の構造と発展，現地組立生産情報システムの設計・開発，部分原価計算論，統計データベース等

過半数の教官がパソコンを導入して教育・研究に利用しています。また、学生の卒論用の計算、授業の実習等のために学部の計算機室があり端末機能を備えたパソコンが設置されています。大規模なデータ処理や数値計算を伴う研究には本学総合情報処理センターの大型コンピュータを利用しています。

学生数は昨年から1学年180名（定員150名，臨時増30名）になりました。3年になるとゼミに入って2年間卒業論文作成のための指導を受けますが、教官1人当りの学生受け入れ数を1学年8名以内として、少人数によるきめ細かなゼミができるようにしています。

なお、勤労学生のための経済学部第2部（5年課程，夜間部）があり、経済学部教官全員が併任しています。定員は、臨時増16名を含めて1学年106名です。

昭和61年には、本学年と法学部および総合科学部を基礎に大学院社会科学研究科（経済学専攻，法律学専攻，国際社会論専攻）が設置されました。経済学専攻は、地域経済研究，計画行政研究，計量経済研究，企業経営研究，歴史経済研究の5つの教育科目で構成されています。学生定員は、博士課程前期が1学年20名，後期が1学年5名ですが、現在の在籍者数は博士課程前期の学生が合計16名，後期の学生が合計7名で、その約半数は外国人留学生です。

広島大学は、現在東広島市にある西条キャンパスへ移転を進めていますが、当学部は平成5年度末に移転する予定です。（平木秀作）